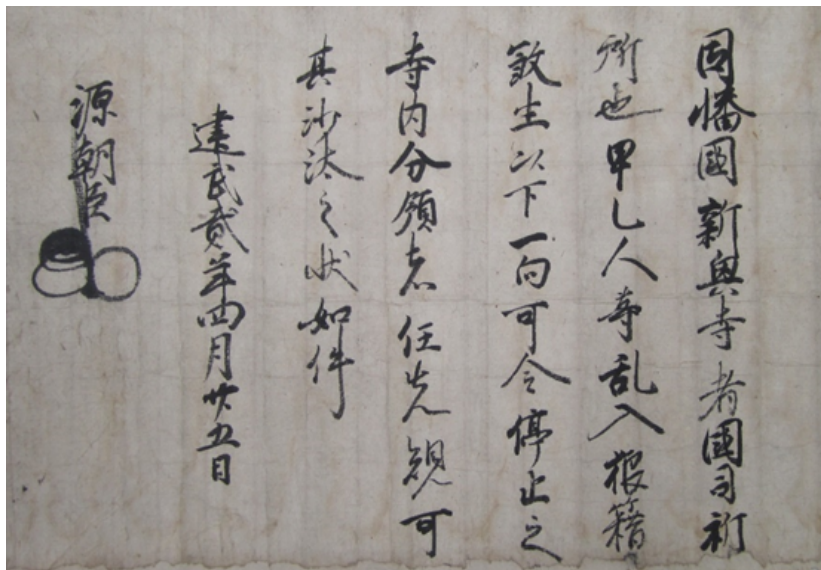


中世

第6章 中世社会の展開 1. 室町幕府の成立と南北朝の内乱 (1) 建武政権の成立

けんむ しんせい なわながとし
建武の新政と名和長年の活躍



名和長年安堵状(『新興寺文書』)★

解説

■名和長年の活躍

名和長年なわながとしは伯耆国なわのしよの名和庄(大山町名和)の地頭で、日本海海運にも関わる有力な武将であった。鎌倉幕府打倒に失敗した後醍醐天皇ごだいごが1333(元弘3)年に隠岐から脱出して伯耆国に到着すると、天皇に味方して、船上山せんじょうざん(琴浦町)に城を構え、幕府軍と戦って、勝利を収めていく。



伝名和長年像(長谷川等伯作)
(東京国立博物館デジタルアーカイブ)

鎌倉府滅亡後、後醍醐天皇は光厳天皇こうごんを廃して、建武の新政けんむ しんせいを始めた。戦功をあげた名和長年は、後醍醐天皇の側近として、建武の新政に参加し、重要な政務を担う記録所きろくしょや所領の問題等を扱う雑訴ざつそ決断所けつだんじょなどの役人を務めたほか、因幡守と伯耆守に任じられていく。

■全国的に少ない名和長年の発給文書

この資料は、八頭町しんごうじの新興寺が所蔵する古文書で、名和長年が新興寺に対して、乱暴狼藉らんぼうろうぜきや殺生の禁止と寺領の保証を定めたもの。名和長年の花押かおう(自筆のサイン)の記された古文書は全国で4点しか見つかっておらず(鳥取県内はこの1点のみ)、貴重な資料である。



名和長年戦死の地
(京都市上京区：名和児童公園)

その後、足利尊氏あしかがたかうじが後醍醐天皇と対立すると、長年は天皇方として尊氏と戦うが、1336(延元元)年えんげんに京都の三条猪熊の地で戦死した。その場所は現在公園となっており、長年の顕彰碑が立っている。

(担当：岡村吉彦)

【意識】
因幡国新興寺は国司の祈禱所なので、今後、いかなる者も乱入・狼藉・殺生などは禁じる。寺領は保証する。
建武二年四月二十五日
源朝臣(名和長年)(花押)

【読み下し文】
因幡国新興寺は、国司祈禱所なり。
甲乙人等乱入・狼藉・殺生以下、一向これを停止せしむべし。寺内分領は、先規に任せ、その沙汰すべくの状、くだんの如し。
建武二年四月二十五日
源朝臣(名和長年)(花押)
*祈禱所：将軍・大名や天皇・公家がそれぞれ祈禱を命じる指定寺院

参考資料

- ・鳥取県『新鳥取県史資料編 古代中世1 古文書編』(2015年)
- ・東京国立博物館研究情報アーカイブズ

★の写真は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。